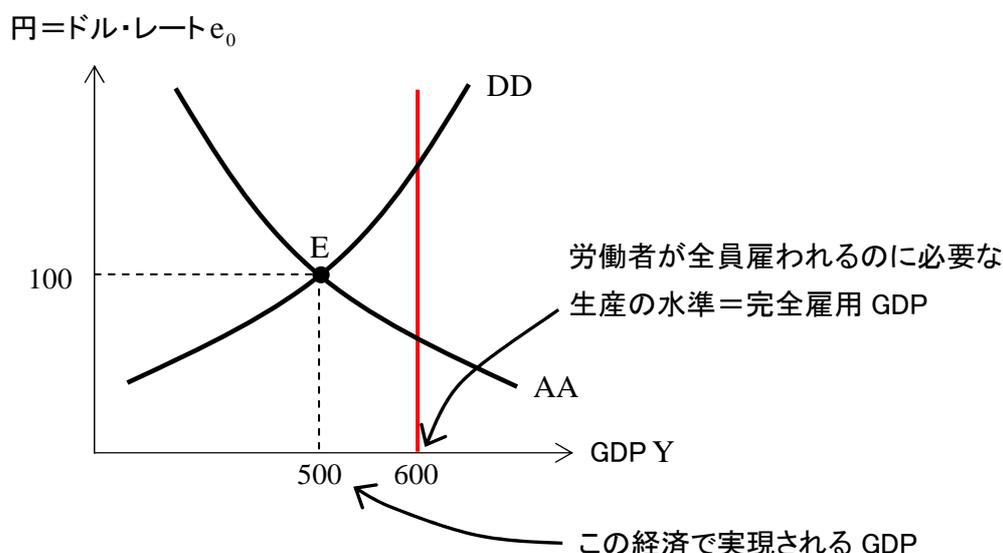


#### 4 完全雇用と財政・金融政策

雇用は政府にとって重要な政策目標である。

一方で、AA・DD 曲線の交点として与えられる均衡 GDP は、労働者全てが雇用されることを保証する大きさになる保証はない。たとえば、経済の均衡 GDP が 500 であったとしよう。500 の財・サービスを生産するのに必要な労働者数が、そのとき働きたいと考えている人の数に一致する保証は何もないのである。

働きたいと考えている人全員を雇うのに十分な GDP の水準を、「完全雇用 GDP」と呼ぶ。この経済の完全雇用 GDP が 600 であるとする、均衡 GDP は 500 であるので、両者を図示すれば次のようになる。



ところで、前節で見たように、経済は均衡 GDP へと自動的に向かってしまう。つまり、均衡 GDP が完全雇用水準の 600 に満たない場合、この経済では放っておけば失業が生じてしまうのである。

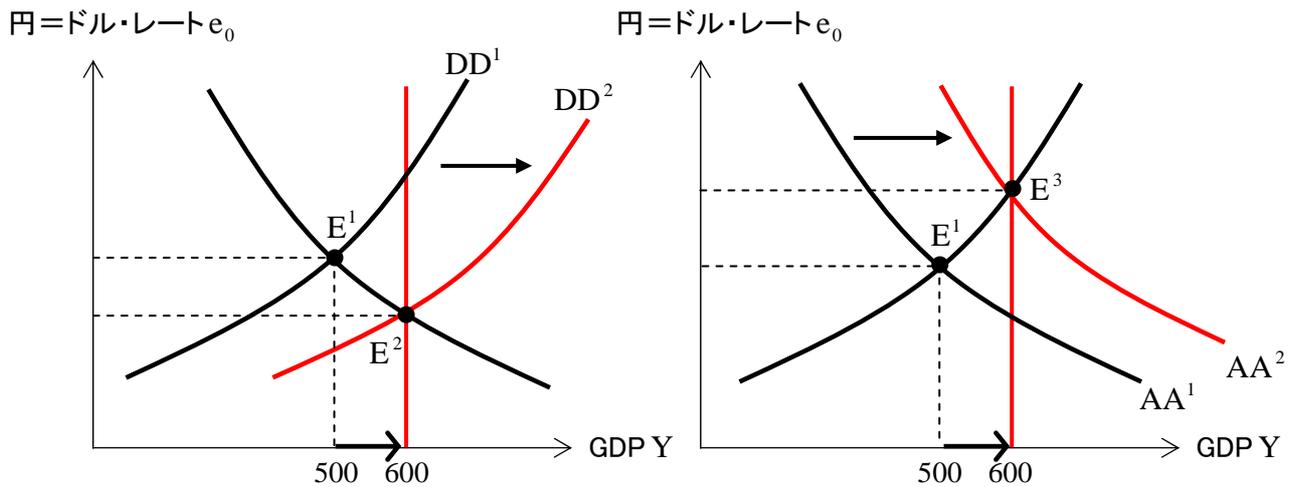
ここで、失業を減らすためには、均衡 GDP 自体を完全雇用水準近くに变化させることが必要である。

では、政府はどのような方法で均衡 GDP を变化させることができるのだろうか？

最初に図上で考えてみよう。

この経済の均衡 GDP は、DD 曲線と AA 曲線の交点で与えられる。ということは、DD 曲線・AA 曲線を動かすことができれば、均衡 GDP を変えることができるということになる。

たとえば、下図左側のように DD 曲線を右側にシフトさせることができれば、均衡 GDP を完全雇用水準に近づけることができる。また、右側のように AA 曲線を右側にシフトさせても、同様の効果が見込まれる。



では、DD 曲線・AA 曲線を動かすには、どのような方法があるだろうか。

- ①政府支出の増加(財政政策) ⇒ DD 曲線を右側にシフトさせる
- ②中央銀行による貨幣供給量の増加(金融政策) ⇒ AA 曲線を右側にシフトさせる

なぜ、政府支出の増加や貨幣供給量の増加が DD 曲線・AA 曲線をシフトさせるのだろうか。  
以下の節で確認していこう。

#### 4-1 DD 曲線のシフト:財政政策

私たちは、DD 曲線を描く際に、(a)政府支出と(b)企業の投資の額をそれぞれ 50, 50 に固定していた。また、(c)消費曲線や(d)経常収支曲線の位置(=GDP と消費の関係, GDP と経常収支の関係)も固定したままであった。むしろ、(e)アメリカの GDP も固定している。

すなわち、(a)~(e)を固定したままで、GDPと為替レートだけを動かして財・サービスの需要と供給が一致する組み合わせを見つけ、DD 曲線が導出されたのである。

したがって、(a)~(e)のうちいずれかが変化すれば、また新たに DD 曲線を導出しなおさなければならない。つまり、DD 曲線が変化することになる。

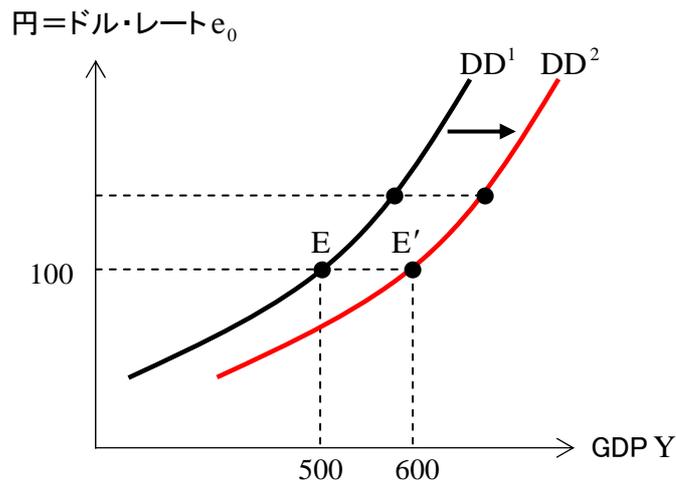
ところで、この中で政府がその意思で変化させることが可能なのは(a)だけである。したがって、政府は政府支出を変化させることで、DD 曲線を動かし均衡 GDP を変化させようとするのである。

実際に、DD 曲線が変化する様子を確認してみよう。

例として、政府支出が 50 から 110 に増えたケースを考えてみよう。

このとき、もはや  $Y = 500, e = 100$  (E 点)では財市場は均衡しない。なぜなら、政府の需要が 50 から 110 に増えているため、GDP(=総供給)が以前と同じままでは供給不足となるからである。

したがって、政府支出が 110 に増えた後では、同じ円=ドル・レート(1ドル=100 円)のもとで財市場が均衡するのに必要な GDP はもっと大きいものとなる(この数値例では 600)。



以上のことは図でいえば、E 点から E' へと財市場を均衡させる組み合わせが移動することを意味する。同様のことが、他の円=ドル・レートの水準にもあてはまる。したがって、財市場を均衡させる組み合わせはすべて右側に移動する。  
 以上より、政府支出が増加することで、DD 曲線は右側にシフトするのである。

このように、政府が支出を変化させて均衡 GDP および雇用水準に影響を与える政策を、**財政政策 (fiscal policy)** という。

4-2 AA 曲線のシフト: 金融政策

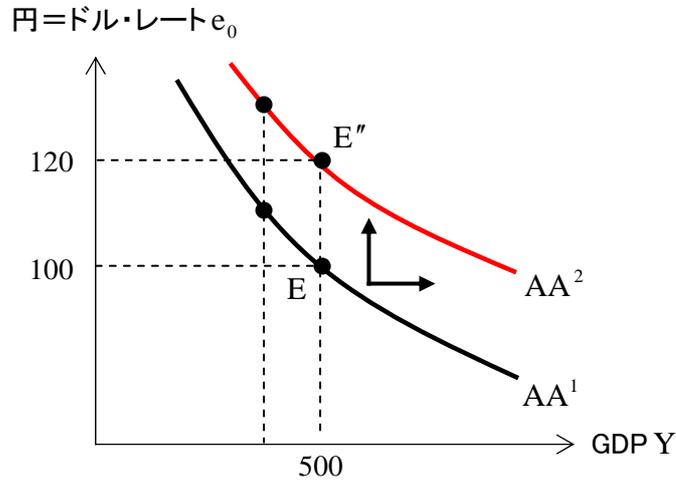
同様に、AA 曲線を描く際に、私達は(f)貨幣需要曲線の位置、(g)貨幣供給量の大きさ、(h)アメリカの利子率や(i)円=ドル・レートの予想値を「与えられたもの」としていた。  
 (f)~(i)を固定して、GDPと為替レートだけをいろいろと変化させて、貨幣とドルの需要・供給が一致するような GDP と為替レートの組み合わせを見つけ、AA 曲線として導出したのである。  
 したがって、(f)~(i)のいずれかが変化すれば、AA 曲線は改めて導出しないといけない。すなわち、AA 曲線はシフトするのである。

ところで、この中で政府・中央銀行がその意思で変化させることが可能なのは(g)の貨幣供給量だけである。したがって、政府・中央銀行は貨幣供給量を変化させることで、AA 曲線を動かし均衡 GDP を変化させようとするのである。

例として、実質貨幣供給量が 200 から 300 に増えたケースを考えてみよう。  
 このとき、もはや  $Y = 500, e = 100$  (E 点) では外国為替市場は均衡しない。なぜなら、貨幣供給量が増えたことで利子率が下落してしまうため、1ドル=100円のままで円建債券の収益率がドル建債券のそれを下回り、ドル買いが殺到、ドルの供給不足が生じてしまうからである。ここで、外国為替市場を再び均衡させるためには、今日の円=ドル・レートがもっと上がって(今日、ドル高になって)「ドルの価値が将来下落する」

という予想を市場参加者に抱かせることが必要である。

すなわち、貨幣供給量が300に増えた後では、同じGDP500であっても、外国為替市場が均衡するのに必要な円＝ドル・レートはもっと大きいものとなる(この数値例では1ドル＝120円)。



以上のことは図でいえば、E点からE''へと外為市場を均衡させる組み合わせが移動することを意味する。同様のことが、他のGDPの水準にもあてはまる。したがって、外為市場を均衡させる組み合わせはすべて上側に移動する。

以上より、貨幣供給量が増加することで、AA曲線は上側(あるいは右側)にシフトするのである。

このように、政府・中央銀行が貨幣供給量を変化させて均衡GDPおよび雇用水準に影響を与える政策を、**金融政策(monetary policy)**という。